

トビウオ通信 (H30 第2号)

http://www.pref.shimane.lg.jp/suigi/ (TEL 0855-22-1720)

《平成29年(2017年)の島根県漁業の動向》

県の漁獲統計システムにより集計した県下漁業協同組合の漁獲統計資料(属人)などから、平成29年(1~12月)の島根県漁業の動向を取りまとめました(海面漁業・漁船漁業のみ)。

全体 … 漁獲量・生産額ともに平年並み

平成29年の島根県(属人)の総漁獲量は13万2千トン(平年比110%)、総生産額は198億円(同104%)でした(表1、図1、2)。前年(平成28年)と比べると、総漁獲量で2万4千トンの増加、総生産額では6億1千万円の増加となりました。総漁獲量はマイワシ(平年比198%)が豊漁だったため増加しました。総生産額では、マイワシ(同184%)、サバ類(同130%)が平年を上回ったため増加しました。

漁業種類別で見ると、漁獲量ではまき網が全体の約8割を占め、漁業生産額ではまき網が全体の42%、定置網が11%、沖合底びき網2そう曳きが12%、小型底びき網1種が8%となりました。

魚種別で見ると、漁獲量の上位5魚種はマイワシ(4万トン)、マアジ(2万6千トン)、サバ類(2万3千トン)、ブリ(1万2千トン)、カタクチイワシ(4千トン)となりました(図3)。これらのうち、マイワシ(平年比191%)、サバ類(同130%)は漁獲量が平年を大きく上回り、マアジ(同83%)、ブリ(同101%)は平年並みでした。カタクチイワシ(同59%)、ベニズワイガニ(同78%)、ウルメイワシ(同67%)は平年を下回りました。

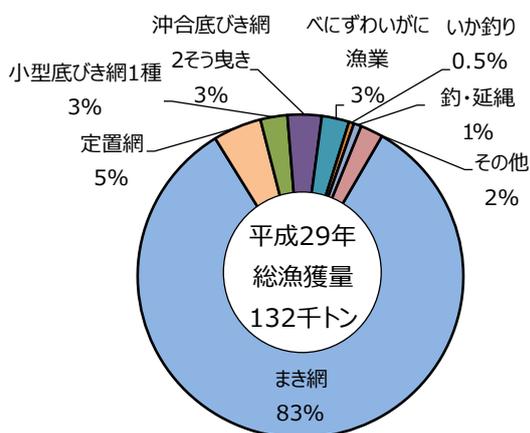


図1 平成29年の島根県の総漁獲量の漁業種類別内訳

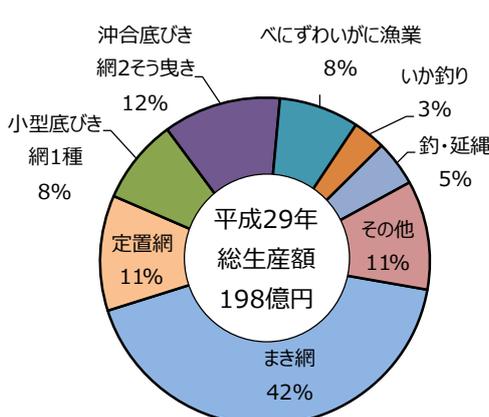


図2 平成29年の島根県の総生産額の漁業種類別内訳

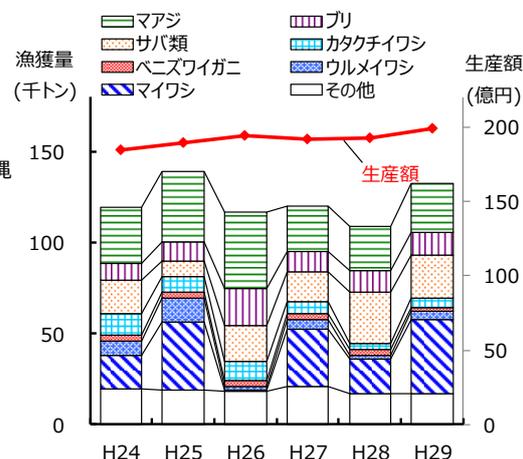


図3 島根県の総漁獲量・金額の推移

＜文中の語句説明＞

- ☞ 平成29年の漁獲量・生産額および平年比は県下全地区、全経営体を対象に集計していますが、沖合底びき網の魚種別統計は実質的に県外を根拠にしている1経営体を除いた数値で比較しています。
- ☞ 「前年」は平成28年の数値、「平年」は過去5年(平成24年~28年)、沖合底びき網漁業のみ過去10年(平成19年~28年)の平均値を指します。
- ☞ 平年との比較は、平年比が120%より高い場合は「平年を上回る」、平年比80~120%は「平年並み」、平年比が80%より低い場合は「平年を下回る」としています。

まき網漁業 ……中型まき網 1 船団あたりの漁獲量は平年を上回る。生産額は平年並み

本県の基幹漁業の一つである「まき網漁業」には中型まき網や大中型まき網などがあります。これらは主にマアジ、サバ類、イワシ類などの浮魚（うきうお）を漁獲対象としています。

平成 29 年のまき網漁業全体の漁獲量は 10 万 9 千トン、生産額は 83 億 1 千万円でした。まき網漁業のうち大半を占める中型まき網の漁獲量は 10 万トン（平年比 117%）、生産額は 70 億 8 千万円（同 103%）でした（図 4）。前年に比べ漁獲量・漁獲金額ともに増加となりました。1 船団あたりの漁獲量は平年を上回り、生産額は平年並みでした（漁獲量は平年比 128%、生産額は同 113%）。

中型まき網を対象に魚種別でみると、マイワシは平年を上回る月が多く、漁獲量は 4 万トン（平年比 199%）となりました。近年主力のマアジは 3 月から 6 月にかけて平年を上回る漁獲でしたが、他の月では平年並みか下回り、漁獲量は 2 万 2 千トン（同 79%）でした。

サバ類は春漁が豊漁で、漁獲量は 1 万 9 千トン（同 136%）と平年を上回りました。カタクチイワシは 4 千トン（同 57%）、ウルメイワシは 3 千トン（同 66%）の漁獲量で、ともに平年を下回りました。

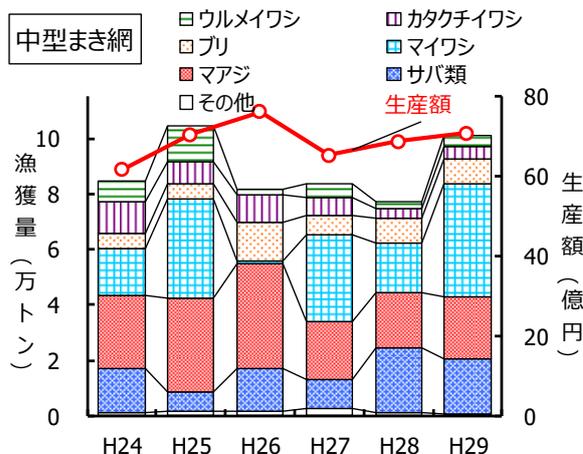


図 4 中型まき網による魚種別漁獲量および生産額の推移

沖合底びき網漁業(2そう曳き) ……1 船団あたりの漁獲量・生産額はともに平年並み

沖合底びき網漁業（2そう曳き）は 2 隻の漁船で網を曳き、カレイ類、アンコウ、アカムツ（地方名ノドグロ）など海底付近に生息する魚介類を漁獲対象としています。平成 29 年の漁獲量は 4 千 5 百トン（平年比 96%）、生産額は 22 億 9 千万円（同 105%）でした（図 5）。1 船団あたりでみると、漁獲量は 642 トン（同 105%）、生産額は 3 億 2 千万円（同 115%）でともに平年並みでした。1 船団あたりの漁獲量・生産額の動向としては、平成 24 年に漁獲量・金額が減少しましたが、その後は増加傾向を示しています（図 6）。

魚種別の動向ではアカムツは平年を大きく上回り、平年比は 233%でした。また、マアジ（同 190%）も平年を上回りました。キダイ（同 112%）、アンコウ（同 103%）、アナゴ・ハモ類（同 92%）は平年並みでした。一方カレイ類は低調で、ムシガレイ（同 60%）、アカガレイ（同 58%）は平年を下回りました。例年 2 月に漁獲が多いマフグ（同 60%）は平年を下回りましたが、カワハギ類（同 379%）は平年を上回りました。

沖合底びき網（2そう曳き）

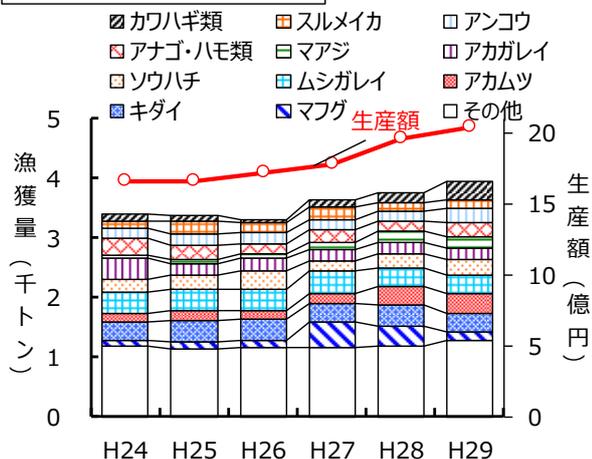


図 5 沖合底びき網漁業（2 そう曳き）による魚種別漁獲量および生産額の推移（一部経営体を除く）

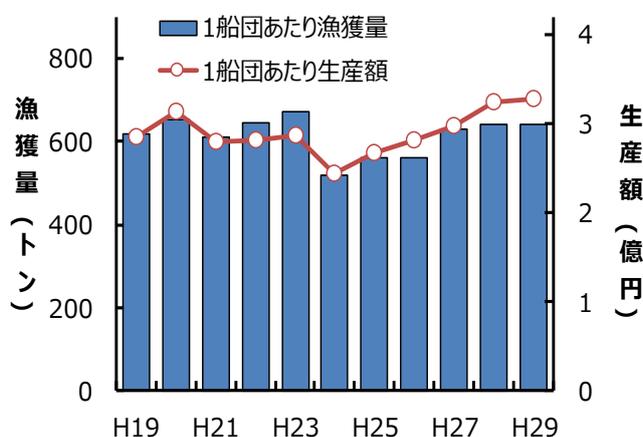


図 6 沖合底びき網（2 そう曳き）1 船団あたりの漁獲量・生産額の推移

小型底びき網漁業 1種 …… 1隻あたりの漁獲量・生産額ともに平年並み

小型底びき網漁業1種は、1隻の漁船で「かけまわし」と呼ばれる漁法で操業し、カレイ類、ニギス、タイ類など海底付近に生息する魚介類を漁獲対象とします。平成29年の漁獲量は3千5百トン（平年比77%）で、生産額は16億6千万円（同90%）でした（図7）。本漁業の操業隻数は廃業等より平成24年以降で53隻から43隻まで減り、総漁獲量は減少しています。1隻あたりで見ると漁獲量は85トン（平年比85%）、生産額は3千9百万円（同99%）でともに平年並みとなりました。

魚種別の動向では、アカガレイ（平年比132%）は平年を上回り、ヒレグロ（同101%）は平年並みでした。一方ソウハチ（同71%）、ニギス（同60%）、マダラ（同44%）、ムシガレイ（同63%）は平年を下回りました（図7）。

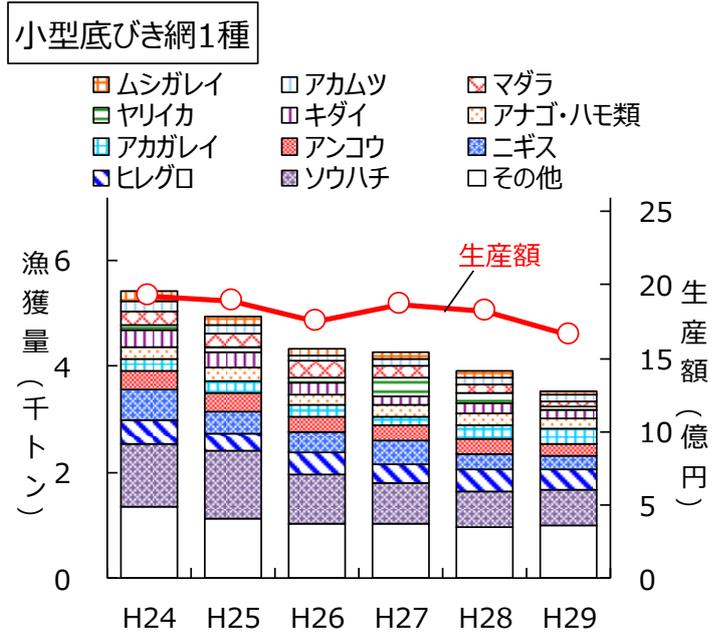


図7 小型底びき網漁業1種による魚種別漁獲量および生産額の推移

定置網漁業 …… 漁獲量・生産額ともに平年並み

定置網漁業（大型定置網・小型定置網・底建網）は魚類の通り道に網を張り、網に入り込んだものを漁獲する漁法で、マアジ、ブリ、サワラ類、イカ類などが漁獲対象となります。平成29年の漁獲量は6千4百トン（平年比106%）、生産額は22億円（同110%）で、ともに平年並みでした（図8）。また、定置網漁業の全漁獲量の約8割を占める大型定置網の1ヶ所あたりの漁獲量（同112%）、生産額（同116%）ともに平年並みでした。

地区別の漁獲動向をみると、出雲地区ではサバ類（平年比142%）、トビウオ類（同ホソ：121% ツクシ：281%）が平年を上回りましたが、サワラ類（同105%）、マアジ（同107%）、ブリ（同109%）は平年並み、ヒラマサ（同51%）、スルメイカ（同21%）が平年を下回り、総漁獲量は平年並み（同110%）となりました。

石見地区ではヒラマサ（平年比43%）、コシナガ（同14%）、ヤリイカ（同48%）が平年を下回りましたが、サバ類（同175%）、サワラ類（同121%）、ケンサキイカ（同137%）、マアジ（同149%）が平年を上回り、ブリ（同82%）、は平年並みで、総漁獲量は平年を上回りました（同125%）。

隠岐地区では主力のスルメイカ（平年比23%）が平年を大きく下回りましたが、ヒラマサ（同80%）は平年並みで、ブリ（同149%）、マイワシ（同402%）が平年を上回り、総漁獲量は平年並みでした（同84%）。

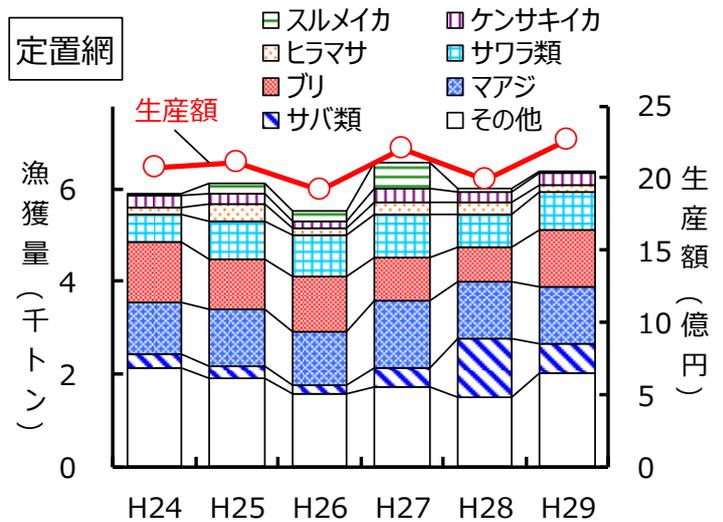


図8 定置網漁業による魚種別漁獲量および生産額の推移

釣り・延縄 …… 漁獲量・生産額ともに平年並み

釣り・延縄の平成29年の漁獲量・生産額はそれぞれ1千トン（平年比84%）、8億9千万円（同91%）でともに平年並みでした（図9）。長期傾向としては本漁業の漁獲量は経営体数の減少などにより減少傾向にあります。前年に比べると、平成29年は漁獲量（前年比96%）、生産額（前年比92%）ともに若干減少しています。

地区別の漁獲動向をみると、出雲地区ではサワラ類（平年比151%）が平年を上回りましたが、漁獲量の約4割を占めるブリ（同72%）が平年を下回り、総漁獲量（同85%）は平年並みとなりました。マダイ（同93%）は平年並み、アマダイ（同65%）は平年を下回りました。

石見地区でもブリ（平年比38%）は平年を大きく下回り、アマダイ（同65%）も平年を下回りました。一方、ケンサキイカ（同781%）は平年を大きく上回り、サワラ類（同181%）、イサキ（同173%）は平年を上回りましたが、総漁獲量（同80%）は平年並みでした。

隠岐地区ではメダイ（平年比236%）、ハタ類（同125%）は平年を上回りましたが、カサゴ・メバル類（同79%）、キダイ（同69%）、クロマグロ（同43%）は平年を下回り、総漁獲量は平年並みでした（同90%）。

イカ釣り …… ケンサキイカは平年並み、スルメイカは平年を下回る

イカ釣り漁業は名前の示すとおりスルメイカやケンサキイカなどのイカ類が漁獲対象で、本県では夜に集魚灯（漁火）によりイカを集める夜釣りが主流です。また、漁船の総トン数により「イカ釣り5トン未満」「小型イカ釣り（5トン以上30トン未満）」「中型イカ釣り（30トン以上185トン未満）」に区別されます。

平成29年の漁獲量は680トン（平年比75%）で平年を下回りましたが、生産額は6億3千万円（同100%）で平年並みとなりました（図10）。魚種別で見ると、ケンサキイカは秋季来遊群が前年より多く漁獲されましたが、漁獲量は577トン（平年比102%）で平年並みでした。スルメイカは平年を下回る漁獲が続き、漁獲量は90トン（同31%）で平年を下回りました。ヤリイカの漁獲量は5トン（同27%）と平年を下回りました。ソデイカについても5トン（同16%）で平年を下回りました。

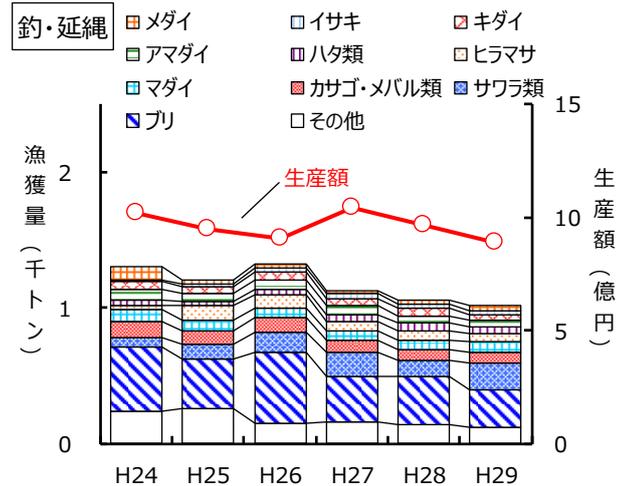


図9 釣り・延縄による魚種別漁獲量および生産額の推移

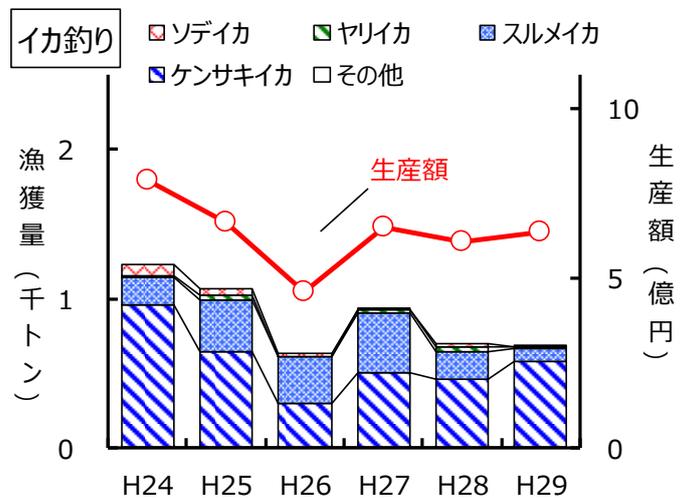


図10 イカ釣りによる魚種別漁獲量および生産額の推移

※ 各漁業の概要やトビウオ通信バックナンバーについては島根県水産技術センターのホームページをご覧ください。
（<http://www.pref.shimane.lg.jp/suigi/>）

表1 平成 29 年の県内主要漁業の海区別漁獲量・生産額

漁業種類	海区	漁獲量※			生産金額※			1ヶ統あたり漁獲量※			1ヶ統あたり生産金額※		
		量(トン)	平年比	前年比	金額(百万円)	平年比	前年比	量(トン)	平年比	漁模様	金額(百万円)	平年比	漁模様
すべての漁船漁業	全県	132,859	110%	122%	19,868	104%	103%	—	—	—	—	—	—
中型まき網	石見	5,491	112%	83%	881	104%	89%	1,965	125%	◎	316	125%	◎
	隠岐	95,318	117%	135%	6,207	103%	105%	11,732	125%	◎	764	110%	○
沖合底びき網2そう曳き	出雲・石見	4,497	96%	100%	2,295	105%	101%	642	105%	○	328	115%	○
小型底びき網1種	石見	3,415	80%	91%	1,584	92%	91%	87	86%	○	40	99%	○
定置網 ※※	出雲	4,073	110%	110%	1,596	113%	116%	213	114%	○	85	116%	○
	石見	1,147	125%	104%	335	125%	117%	256	136%	◎	73	136%	◎
	隠岐	1,170	84%	99%	335	90%	106%	261	87%	○	82	97%	○
釣り・延縄	出雲	499	85%	96%	326	86%	96%	—	—	—	—	—	—
	石見	302	80%	101%	258	83%	96%	—	—	—	—	—	—
	隠岐	216	90%	92%	309	107%	86%	—	—	—	—	—	—
イカ釣り	出雲	266	67%	86%	271	91%	90%	—	—	—	—	—	—
	石見	222	114%	125%	206	122%	117%	—	—	—	—	—	—
	隠岐	193	61%	91%	159	96%	121%	—	—	—	—	—	—

※ 全体の漁獲量・生産額・平年比は県内全漁協・全経営体が対象。

平年比：過去5年(H24～H28年)の平均値との比較、沖合底びき網2そう曳きのみ過去10年(H19～28年) 漁模様：◎平年を上回る、○平年並み、▲平年を下回る

※※定置網の1ヶ統あたり漁獲量・生産金額は集計対象期間(H24～H29年)に操業実績のある大型定置網のみを対象に算出。